

ますはら

「絶えずともす」

「イスラエルの人々に命じて、オリーブの実を砕いて採った灯のための純粋な油を、あなたのところへ持って来させなさい。灯を絶えずともすためである。」

(レビ記 第24章2節・旧約聖書187頁)

はじめに

「主は生きておられる」との信仰告白は、御言葉の約束を心に刻み、同時に主との交わりわくかさなないことであると申し上げました。すなわち、私たちは礼拝において主と交わることに、心の目が開かれ、主が生きておられる方であることを知るのです。この礼拝の大切さ、また礼拝とは何かを教えているのがレビ記です。

レビ記の位置づけ

モーセ五書と呼ばれている旧約聖書の最初の5巻の内容を簡単に解説すると、創世記は「神と人間の関係」、出エジプト記は「人間の救い」、レビ記は「救われた人間がささげるべき礼拝」、民数記は「信仰の実践」、申命記は「信仰者の目標」となります。神に選ばれ、救われた者たちの生活の中心は神との交わり、礼拝です。ですから、どのような礼拝を献げているかによって、信仰の質、神からの恵みの受け方が変わってくると言ってもいいでしょう。そのためにレビ記は大切な礼拝に対する指導書なのです。

この24章の前半では、礼拝をどのような思いで献げるべきかを示し、後半では神の名によって集まるべき礼拝に、神の名をそしって祝福から退けられた例を挙げて、正しい姿勢で礼拝すべきであることを教えています。

灯とパン

では、私たちはどのような思いで礼拝を献げていくべきなのでしょう。

会見の幕屋の中には証の箱がありました。神

が共にいる、臨在のしるしであり、汚れた者は一切触れることができません。ここでも、アロンは垂れ幕の前で礼拝を献げるように言われています。垂れ幕の前には、純金の燭台があり、純粋なオリーブ油を絶えず注ぎ、一時たりとも消してはならないとされました。

何を意味しているのでしょうか。まず、会見の幕屋は私たちの中にある、つまり私たちは神に選ばれた民であるゆえに、礼拝に招かれているということです(ペテロ 2:9～)。次に、幕屋の前に出た私たちは、賢いおとめのように(マタイ 25)、常に神の前に自らの信仰を表すための灯を掲げるべきであるということです。オリーブ油はゲッセマネ(油搾り)を象徴しています。その油によって、私たちは十字架によって破られた幕(マタイ 27:51)の中に入り、直接、神の前に出て礼拝ができるようにされているのです。同様に、献げられるべきパンは、十字架によってさかれた主イエスの体です。

主の贖いによって

私たちは神の前に出る特権を得ることができました。それが礼拝です。そして、その礼拝に必要なとされるのは、主イエスが私たちの贖いを成し遂げるために苦しみを受けたことを示す油とパン、つまり、私たちはこの十字架を信じる信仰によって、幕の中に入り、神と顔と顔を合わせて礼拝を献げることができるようにされているのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「イスラエルの人々に命じて、オリーブの実を砕いて採った灯のための純粋な油を、あなたのところへ持って来させなさい。灯を絶えずともすためである。会見の幕屋の中の証しの箱の前にある垂れ幕の手前で、アロンは、夕暮れから夜明けまで、主の前に常にその灯を整えなければならない。これは代々にわたって守るべきとこしえの掟である。彼は灯皿を、主の前にある純金の燭台の上に常に整えておかなければならない。…安息日ごとに、永遠の契約としてイスラエルの人々から受け取り、それを常に主の前に



整えなさい。」(レビ記 24:2～4、8)

「賢いおとめたちは、それぞれの灯と一緒に、壺に油を入れて持っていた。」(マタイによる福音書 25:4)

アロンは主の前に出て、常に灯をともし続けました。神によって選ばれ、招かれている私も、このようにして、常にあなたの前に出ることができるようになってください。主はその十字架によって、神の箱の前にある幕を破り、私を御前に薦めるようにしてくださったことを覚えて、さらに熱心に礼拝を献げることができますように。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (91) 第4章20～21節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「子よ、私の言葉に思いを向けよ。私の語りかけに耳を傾けよ。目から離すことなく心の内に守れ。」

◎口語訳 「わが子よ、わたしの言葉に心をとめ、わたしの語ることに耳を傾けよ。それを、あなたの目から離さず、あなたの心のうちに守れ。」

◎新改訳 「わが子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。」

「目から離さない」

「注目する」とは、目を注ぐと書きますが、この「注」という漢字は、「主」というロウソクから形成された漢字がツクリになっています。祭壇などに設置することによって、無視できない拝む対象としたのです。ですから、「主人」は拝まずとも、自分が従わなければならない、少なくともそこでひれ伏さなければならない人物を指します。サンズイがつくと、主人の器に集中をし、水、飲み物を注ぐような意味を持ちます。自分が飲む者ならば失敗しても良いですが、お客様、またはそれ以上の高いくらいの人に対して接待をしているイメージで考えると、絶対に失敗は許されません。注ぎ口と注ぐ器に一点集中して注ぐはずで、目を離すことなどでき

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

ません。

ここで父は子に対し、この緊張感が伴うような「目を離さない」ことが重要であることを論じました。なぜ目が離れてしまうのでしょうか。それは「なれ」です。いつもやっているから大丈夫だとの油断があると、目を離しがちです。そして、高い確率で成功はするでしょうが、失敗した時の代償は大きいのではないかと思います。知恵の言葉を自分の心にしっかりと注げるように、耳を傾け、そして心にとどめていかなければなりません。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

エズラ記第2章59節「次に記すのは、…帰還したが、家系と血筋がイスラエル出身かどうかを明らかにすることのできなかった者たちである。」◆とにかく、読む私たちには苦痛が伴うが、系図は重要である。なぜなら、自分の出自を示すことができる証明書だからだ。ところが、バビロンに長く住むことで、自分が神の民である誇りを捨て、神の恵みの歴史である系図を捨てて生活をしてしまった者たちがいた。そこで彼らは、本来持つことができる栄誉ある役職に復帰できなくなってしまったのである。あなたは神の民であることに誇りを持つべきである。

●賛美 / 516 ●祈禱課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

エズラ記第3章12節「昔の神殿を見たことのある多くの年配の祭司、レビ人、親族の頭たちは、この神殿の基礎が据えられるのを目にして大声で泣いた。多くの者が喜びの叫び声を上げた。」◆再建は主の宮から始められた。しかし、その基礎をすえた時、老人たちは泣いた。今までの捕囚であった身から帰還してきたからではない。ソロモンの神殿とは比べものにならない、小規模の宮だったからだ。そして、このようになってしまった歴史を思い出し、自分たちの愚かさ、そしてみじめな思いに耐えられなかったのだ。だが、その悔い改めこそ、再建には必要だった。

●賛美 / 517 ●祈禱課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

エズラ記第4章14節「王宮から俸給をいただいておりますので、王様に対する非礼を見逃すわけにはまいりません。」◆民たちが留守の間、エルサレムを占拠し、居住を許されていた者たちがいた。彼らは自分の利権を手放したくない。そのためにあることないことペルシア王アルタクセルクセスに訴えた。私たちの歩む道には敵も多く潜んでいる。しかし、いわれのないことを告げ口されて窮地に陥るようなことがあっても、動じはならない。神が知っておられるならば、神がご自分の方法で、私たちの道をまっすぐに開き通してください。

●賛美 / 518 ●祈禱課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
◆宗教法人を取得できるように
◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

エズラ記第5章5節「神の目がユダの長老たちの上に注がれていたので、その報告がダレイオスに届き、この件に関する文書が戻って来るまでは、彼らの作業を中止させることができなかった。」◆再建の邪魔をしようとした者たちは、すぐに中止するように脅したが、王から返信があるまで、手を止めることなく再建に当たった。私たちが神の御旨に従って生きようとする時、必ずそれをくじけさせるような力がかかる。だが、神の事業はそのような力によってやめさせることはできない。神は必ず目的を果たされる。そのために、主はあなたを見守り続けられる。

●賛美／1 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

エズラ記第6章7節「神殿の工事について口出しせずにおきなさい。ユダヤ人の総督とユダヤ人の長老たちは、元の場所に神殿を再建しなさい。」◆タテナイらは、陥れるようにして書いた手紙がペルシア王に採用されると思った。ところが彼らにとって完全な敗訴となる。中止どころか再建が進むように費用を提供しよとの命令がくだされたのだ。ペルシア王キュロスの心を動かし、民たちを故郷に帰還させた神は、ペルシア王が代替わりしても王の心を守り、神の民たちに再建を果たさせた。敵に有無を言わさぬような敗北を与え、神の正義は貫かれていく。

●賛美／2 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

エズラ記第7章1節「これらのことの後、ペルシアの王アルタクセルクセスの治世に、エズラという人がいた。」◆これらのことの後とあるが、6章と7章の間には約60年経っている。神殿は再建された。しかし、再建はそれで終わったのではない。エズラは、神の律法に従わせるため、つまり、心の再建のために遣わされた人物だった。私たちの幸せは何だろうか。人生の成功は何によってはかることができるだろうか。すべてが豊かになっても、心が虚しければ、その人の人生は虚しい。心の満足を得ることに注目しよう。

●賛美／3 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

エズラ記第8章21節「私はアハフ川のほとりで断食を呼びかけた。それは神の前にへりくだり、私たちのため、幼い子らのため、その他の財産のために、道中の無事を求めてのことであった。」◆エズラは民たちと共に約1500キロの道を歩くことになるが4カ月以上歩き続ける力が与えられ、危険から守られた。私たちの歩みも長く苦しくまた危険に満ちている。自分の力を頼もうとするなら心配や不安ばかりになる。だが、その日、その日に神に向かい、正しい道を示されるように祈っていくならば、そこに平安がもたらされる。神が人生の旅路を祝福してくださる。

●賛美／4 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【マタイによるふくいんしよ 25:1～13】

「さいりんへのじゅんび」

(マタイ 25:13)

2000ねんまえ、イエスさまはじゅうじかにかかり、そしてふっかつし、わたしたちにすくいのみちをひらいてくださいました。イエスさまのじゅうじかをしんじるひとは、えいえんのいのちをもつことができます。えいえんのいのちとは、かみさまとつながるころをいいます。

イエスさまはふっかつされたのちに、おおくのひとたちにふっかつされたことをしょうめいし、てんにかえられました。わたしたちがえいえんにかみさまとともにすむすまいをよういするためです。てんにのぼられるとき、てんしが「イエスさまはいまみているすがたとおなじように、ふたたびこのちじょうにおいでになります」といいました。イエスさまがふたたびおいでになることを「さいりん」といいます。そのとき、わたしたちはえいえ

んのすくいにあずかることができる、すくいのかんせいのときをむかえるのです。

では、その「さいりん」のときまで、どのようにして、まっていればいいのでしょうか。イエスさまはけっこんしきにたとえてはなされました。

そのころのけっこんしきは、はなむこがむかえにくるのをまって、はなむこにまねかれてからしきにでることができました。でも、はなむこがくるのは、いつになるかわからないので、よるになってもいいように、かしこいひとは、あかりをとまず、ともしびざらだけでなく、よびのあぶらもじゅんびしていました。なかなかはなむこがきません。かしこいひとはあぶらをもっていました。そうでないひとは、ひがきえてしまったのです。あぶらをそそぎ、ひをたやさなかつたひとはけっこんしきにでられましたが、ひがきえたひとはけっこんしきにはいることができませんでした。

このあぶらは、イエスさまをしんじるしんこうをあらわしています。みんなはどうですか。

●かんがえてみよう

☆はなむこがくるのをまっていたのは、なんにんのおんなのひとでしたか。

(マタイ 25:1)

☆あぶらをよういしていたのは、なんにんでしたか。(マタイ 25:3)

☆イエスさまはどのようにして、さいりんをまつようにいっていますか。(マタイ 25:13)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

そのこきをしらさない

き	を	い				と	ら	し
と						き	な	そ
そ	し	な		き			い	
な	と	そ				の	し	を
	い	し	な				そ	
	き		の	し		い	と	な
い	な					し	そ	ら
し	の	き	ら	そ		な		と
		を		と		し	の	い

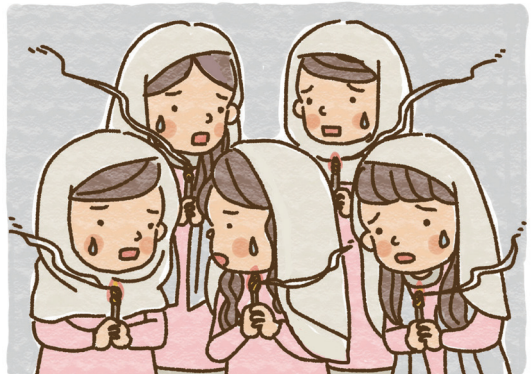
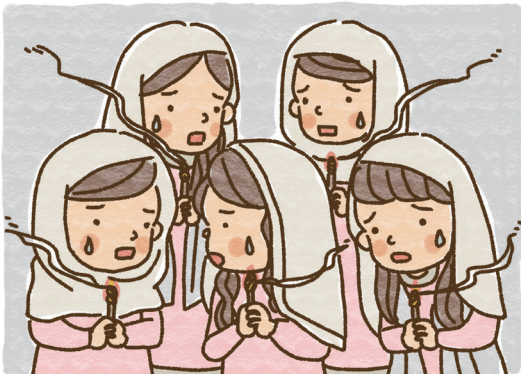
ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。教えてください。

- ① しゅのまえくん
- ② にくてんの
- ③ にんじゅう
- ④ はこむな

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「KOBAN」

当たり前のように目にし、時にはお世話になっている交番ですが、世界各国にあると思ったら、どうもそうではないようです。今年3月にフランスのパリ市長選があり、出馬予定の候補者が、パリの治安改善のため、日本の交番を参考にした移動式の派出所を設けるとの公約を掲げたことで、「えっ」と気付いたわけです。「犯罪予防には非常に効果的だ」と評価されたのです。

この制度は明治7年に東京で開始されたそうで、

最初は建物はなく、町の中心に定期的に出て行って、取り締まりをしていたとのこと。雨風の日には大変だということで、「交番」と呼ばれる建物ができたのが明治14年。それ以降、そのスタイルが継承されているそうです。今や、この交番制度はアメリカやシンガポールでも取り入れられているとのこと、地域住民の安全を守るために日本警察が作ったシステムが世界でも採用されているわけです。だからパリス・ボックスとかではなく、「KOBAN」と表記されているのかと納得です。「SUMO」とか「SUSHI」とかと一緒に、日本発祥の文化を海外が認めてたわけです。駐在所なんかはある意味、家族が24時間勤務を強いられているので大変ですね。教会に牧師館があるのと同じだから、わかります。

聖書ふれあい街歩き

●ツィクラグ

ツィクラグはもともとはペリシテ人の町でした。ネグブ地方（南部）にある町で、ダビデはサウル王の執拗な追跡を避けるため、敵であったペリシテ連合のひとつ、ガトの王アキシュのもとに身を寄せました。その時に居住地として与えられたのがツィクラグです（サムエル記上27:5）。

ダビデの逃亡生活は一人ではありません。家族や部下を合わせたら約600人ほどがあり、どうしても安定して暮らせる拠点がほしかったわけです。ダビデはアマレクを討伐しながら、その戦利品を分配しているのですが、これは後にユダの支持を得る伏線となりました。注目すべきはダビデが住んだことで、「ツィクラグがユダの王に属する」ものとなったことです（サムエル記上27:6）。ペリシテの手からユダ王国の正式な町に移ったこととなります。

ただ、アマレクに家族を奪われた時には仲間から殺されそうになるのですが、「主によって自らを励まし」、祈りによって導きを受け、家族を奪還します。ツィクラグは王となる前のダビデが、信仰的指導者として地盤を固め、また様々な経験を通して鍛えられ、王となるための準備をした場所だったのです。

ななめ聖書 先週のこたえ

く	だ	で	わ	ん	れ	さ	い	あ
ん	れ	あ	さ	い	く	だ	わ	で
さ	い	わ	あ	で	だ	ん	れ	く
れ	あ	く	だ	わ	で	い	さ	ん
だ	で	さ	い	あ	ん	わ	く	れ
い	わ	ん	れ	く	さ	で	あ	だ
あ	さ	だ	ん	れ	い	く	で	わ
わ	く	い	で	だ	あ	れ	ん	さ
で	ん	れ	く	さ	わ	あ	だ	い

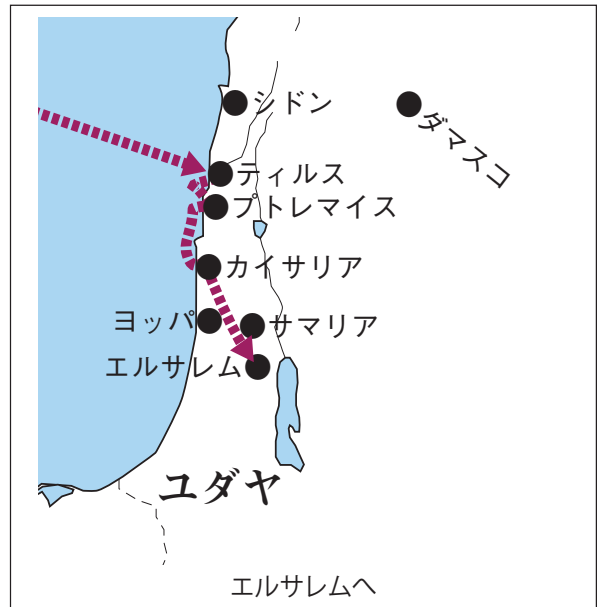
- ①へりくだるもの
- ②しゅうにゅう
- ③うぬぼれる
- ④つみびと



エルサレムへ

その時、パウロは答えた。「泣いたり、私の心を挫いたり、一体これはどういうことですか。私は、主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも覚悟しているのです。」パウロが私たちの説得を聞き入れようとしないので、私たちは、「主の御心が行われますように」と言って、口をつぐんだ。

数日後、私たちは旅の準備をしてエルサレムに上った。カイサリアの弟子たちも数人同行して、私たちが泊まることになっていたムナソンと言う人の家に案内してくれた。ムナソンは、キプロス島の出身で、ずっと以前から弟子であった。私たちがエルサレムに着くと、きょうだいたちは喜んで迎えてくれた。」(使徒言行録21:13~17)



【パウロの覚悟】

エルサレムから来た預言者アガボは先回も触れたように有名な預言者で、「世界中に大飢饉が起こると霊によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった」(使徒11:27)との出来事から、神の預言者として内外に認められていたと思われます。そのため、パウロに対するアガボの預言はルカを始めその場にいた弟子たちに衝撃を与えました。それだけでなくパウロを取り巻く状況は誰もが危惧するものでありまして、「エルサレムには行かないでください」と懇願するのは当然な行為でした。

しかし、パウロは「私の心を挫くな」と一括します。「一体これはどういうことですか」との言葉に、「今までに楽な宣教があったか。いつも私たちは命がけで福音を伝え、実際に死にかかったこともあったじゃないか。もしそれを恐れて避けてよとするなら、とっくに宣教などしないで戻ってきてるよ。なんでいまさら危険だから行くななどといっているのか。私の今までの姿勢をあなたたちは理解していなかったのか」と半ばあきれ、また失望を隠せない姿を感じます。

パウロの覚悟を改めて知った弟子たちは沈黙するしかなかったのです。主が召し、それを使命として受け止めて立ち上がった者たちがとるべき態度だと思えます。アブラハム、モーセらは神の声のみに従ってね、その歩みを止めることはありませんでした。パウロもまた同じです。

【ムナソン】

数日後、フィリポの家を出たパウロ一行はエルサレムに向かいました。距離は約120kmありますので、2~3日かかりました。ルカによる福音

書に、エルサレムからエマオという村に行く途中の弟子たちに、主イエスが現れたという記事があります。距離が60スタディオンあったと書かれてありますが、1スタディオンが180mなので、約10km。エルサレムを出た時刻にもよりますが、道々話をしながら歩いていたので、エマオに着く前に夕暮れになってしまい、近くの宿泊所で主イエスと夕食をとることになりました。つまり、早足で歩かなければ、もっと時間がかかるわけですが、今回の移動はそのような雰囲気を感じられません。迷うことなく、走るようにして一直線でエルサレムに向かうパウロを想像できます。

パウロを迎え入れたのはムナソンの家でした。ムナソンはここにしか登場していませんので詳細は不明ですが、それでも「キプロス出身」、つまりバルナバと同郷であったことが紹介されています。キプロス人改宗者との見方もありますが、「ずっと以前から弟子であった」との紹介文から、エルサレム教会が活動し始めた時期から、もしかするとそれ以前から信仰を持っていた可能性があります。そうすると、キプロスに住んでいたユダヤ人、つまりパウロと同様のディアスポラ(外国に寄留していたユダヤ人)であろうと思えます。そう考えれば、外国で生活をしていることで、パウロの異邦人伝道に理解をしやすい、パウロの活動当初から支援していたと考えてもおかしくありません。パウロを受け入れることで自分の身にも危険が迫ってくるわけですから、ムナソンもさうとうの覚悟をしていなければ、一行を受け入れなかったでしょう。また、エルサレムの町中で、相当の人数を受け入れられたのですから、経済的に余裕があったこともわかります。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2026年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#2/17)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#2/15)として守ります。

四旬節(#2/18～#3/28)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#2/18)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#3/29～4/4)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#3/29)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/2)、十字架にかかられた受難日(#4/3)と過ごしていきます。

復活節(#4/5～#5/23)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/5)から始まります。春分の日の後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/14)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #5/17)となります。

聖霊降臨節(#5/24～#11/28)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#5/24)から

始まり、三位一体主日(#5/31)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/29～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/20)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/10・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/14・6月第二)
父の日(6/21・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/22・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・木)
成人祝福礼拝(#1/11・1月第二)
聖書愛読週間(#3/22～28)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/29)
最後の晩餐集会(#4月2日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/14・6月第二)
弾圧記念礼拝(#6月28日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月5日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/13・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/1・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・木)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし
私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

しゅ
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、ひとびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

